

報道各位

2014年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2014年1月6日(月) 午前10時30分 TOKYO FMホール～

株式会社エフエム東京は、2014年1月6日(月)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役会長・富木田道臣、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。

◇代表取締役会長・富木田道臣 あいさつ◇

いよいよ今年にはマルチメディア放送スタートの年。「見えるラジオ」から20年、デジタルラジオといわれて15年の時を要したわけであります。また、1つのメディアを一人前にするには、歴史的にも10年の時が必要であり、なかなか一朝一夕にはいかないものであります。

激変する社会にあって適応能力を持つため、いよいよ将来に向かって大きな一歩を踏み出すときです。

マルチメディア放送のコンセプトを今一度整理しておく、超多メディア・多チャンネル化の中において、単に複数のチャンネルを増やそうということではありません。

放送と通信の良いところを結合させ、社会的に重要な意義のある新しいコミュニケーションインフラ、コミュニケーションプラットフォームを創り上げようということであります。社会的に重要なインフラの構築には様々な企業に参加いただくとともに、そのプラットフォームを活用希望の皆様にはオープンにご参入いただき、一緒になって、生活者の情報優先取得度の高い、安心・安全情報をはじめとする信頼性の高いコンテンツ、産業を活性化させるコンテンツ、ならびに真に心を豊かにするコンテンツなどを提供しようというものであります。

長きにわたる紆余曲折の歴史ではありましたが、総務省が新たな制度を去る12月10日に確定しました。いよいよハード事業者、ソフト事業者の順で申請手続きに入ります。ハード事業者の申請締め切りは2月3日と制度確定からして大変タイトなスケジュールですが、長期的スタンスに立ち、全社一丸となって準備を整え、事業化を強力に推進して参ります。

ご支援賜る皆様には良かったねと喜んでもらえるよう、今こそ当社グループの「開発とチャレンジ」のDNAを結集し、マルチメディア放送の船出を確かなものとするとともに、社会的に意義あるコミュニケーションシステムの創造という、長年の夢の実現に向け、ぶれることなく最善を尽くして参りましょう。

◇代表取締役社長・千代勝美 あいさつ◇

20年来の取り組みの結実の年、いよいよマルチメディア放送元年を迎えます。

この規模の意義あるインフラとサービスを新規事業として確立させるためには、多くの企業と協調することはもとより、現在のFM放送事業自体をさらに強靱なものにして、優れた収益構造に変革していく必要があります。

たしかに広告費統計をみると、ラジオ全体の広告投下費は全盛期の半減に近い状態であります。IT情報通信の目覚ましい発展の中で超多メディア時代が生まれ、メディア価値の相対的希薄化が起こったことも事実です。

しかしながら、私自身はもっとポジティブに、この逆境とみられる状況はチャンスであると捉えています。なぜならば、もともとSNSと親和性が強い特徴を持つラジオは、逆に、ITの進化によって、ラジオそのものがSNSや他のメディアと融合し、それをさらに統合化させて、発信力や拡散力を強める機会が得られたとも思います。

「SCHOOL OF LOCK！」や「あ、安部礼司」に続く「Skyrocket Company」などのクリエイティブモデルがさらに深化していくことが望まれます。さらに若者の日常的なライフスタイルからは、「目」や「手」はPCやスマホに奪われ、空いている「耳」に音像メディアとして発信できるFMラジオにはアドバンテージがあるともいえます。統合メディア戦略を推し進める理由がここにあります。

クリエイティブ・イノベーションは今年も我々のテーマです。アースコンシャス・ヒューマンコンシャスの社会的・文化的ステーション理念に常に底流で裏打ちされながら、コンテンツ創りにはエッジの効いた新鮮な感性で発想していくことが求められていると思います。そのためには自前主義や閉鎖的にならず、体外的なコミュニケーションを充実させ、オープンな関係作りをする中で、生活者の反応を観察しながら、外部の優れた方々と連携して「驚き」を呼び起こすような「化学反応」を起こして欲しいと思います。

2014年の放送界の主役になるよう、皆さんとともにこの新しい年を歩んでいきたいと思っております。